多くの方々に知って欲しい有馬家と国姫

中野行賢

私は〈有馬家〉と聞くと「九州のキリシタン大名」で、「天正遣欧少年使節」と何か関係があるのかな、というぐらいのイメージしか湧かなかった。
しかし今回の講談を拝聴しよくよく紐解いてみると、キリシタン大名で、家康から切腹を命じられた有馬晴信、その嫡男で若い時から家康の近習を勤めた有馬直純、そしてその妻で家康・信長の曾孫で、かつ松平信康・本多忠勝の孫である國姫、さらに直純の死後、追腹を切った忠義の殉死十三士、「家康」の一字をもらった直純・国姫の嫡男「康純」と実に多くの役者が揃いに揃っているではないか・・・。
その上、島原→延岡→糸魚川→丸岡と温暖な九州から雪深い北陸へと渡り歩き、さらに歴史的に重要度が極めて高い戦乱「島原天草一揆」では、自らの城であった【原城】に攻め入らなければならなかった史実など、誠に興味深く、話題性も豊富である。
NHK 大河ドラマとして一度取り上げていただくには、実に十分すぎるぐらいの題材があるのではないだろうか、と感じるのは私だけではないと思う。
特に国姫の毛並みの良さは抜群でありながら、ほとんど表舞台に登場することがないように思い、極めて残念である。
婿選びの扇打ちの逸話も、ある程度の脚色はあるかもしれないが、小松姫（本多忠勝の娘）に勝るとも劣らない話である。有馬家と真田家の歴史上の重みの違いは多少あるかもしれないが、圧倒的に小松姫の方が知名度が高いような気がする。
"歴史に埋もれる" という言葉はよく耳にするが、北陸の名城〈丸岡城〉を語る際は、柴田勝家や勝豊、「一筆啓上、お仙泣かすな馬肥やせ」の本多家のことだけでなく、是非有馬家の歴史もお忘れなきよう願うところである。